

英語科学習指導案

指導者 赤松 壮介

ALT Sam Gledhill

1 日時 令和元年 10 月 8 日(火) 6 校時

2 学級 3 年 7 組 (男子 16 名, 女子 15 名 計 31 名) 東校舎 2 階 3 年 7 組教室

3 主題 My Project 8 日本文化を紹介しよう (Sunshine English Course 3)

4 主題について

本単元は、中学校学習指導要領外国語編の目標「(4) 話すこと [発表] (イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」を学習できる単元である。題材としては、2 学期中盤に設定する口頭発表活動として、自分が住む地域の伝統行事やまつりなどについて紹介するスピーチを行う。

本学級は前向きに課題に取り組み、ペア練習等の活動にも、積極的に取り組む生徒が多い。しかし、同じ学習者の発表に対して傾聴し、その内容を自己の価値観に照らし合わせ問題意識を持つ力には乏しい。本時では、初めて来日するカナダ人の立場に立って質問を考える場面や状況が重要となってくる。ペアやグループ活動において、そのような場面で求められる能力の育成にも意識して本単元及び本時の授業を展開していきたい。また、書くことに対しては抵抗を感じており、基本的な知識や技能が不十分な生徒も少なくない。そのような生徒にも声掛けを忘れずに行い、本時の学習において取り上げた学習内容をしっかりと学習したという達成感を感じさせたい。

単元ではモデル文としてハロウィーンと十五夜を扱い、文章の構成 (情報の流れやつながり) を理解させ、さらに節分や七夕を説明した文章から、役立ちそうな表現を抜き出し、英作文づくりの参考にして取り組ませたい。また、紫波町と盛岡市はともに東京オリンピックのカナダチームのホストタウンになることから、海外からのお客様に日本文化を自分の経験や考えを加えながら説明できるようにしたい。本単元のスピーチ活動は、即興的に話すことは目的とせず、事前に原稿を書き、練習した上で発表活動を行う。原稿を準備する段階で「読む」「書く」活動を、発表活動では「話す」「聞く」活動に重点を置くことで 4 技能の総合的な指導ができると考える。発表原稿は既習の言語材料を用いて作成するが、3 年 2 学期に学習した call+O+C, make+O+C, 現在分詞や過去分詞の形容詞的用法などの表現も積極的に使わせたい。

5 本時の達成目標

海外からのお客様へ、日本の伝統行事や文化・祭りなどについて説明する文章を書くことができる。

6 評価場面での生徒の記述例

【外国語表現の能力】

おおむね満足 B	十分満足 A
自分が住む地域の伝統行事や祭りについて、文章の構成 (情報の流れやつながり) に留意して、伝えることができる。	自分が住む地域の伝統行事や祭りについて、文章の構成 (情報の流れやつながり) に留意し、自分の経験や考えを加えながら、伝えることができる。

7 振り返り場面での生徒の記述例

最初は原稿に頼ることが多かったが、コンセプトマップを用いることで、原稿から目を話してアイコンタクトをしたり、リアクションをしたりすることでより自然な対話に見えるようになった。次のパフォーマンステストでは、他者からのアドバイスを参考にして、よりよいプレゼンテーションにしたい。

8 本時の展開

段階	学習内容	指導上の留意点 評価の観点・方法 ◆教材・教具
導入 10分	1 ウォーム・アップ 2 学習課題を把握する	1 既習事項の確認。 2 評価項目の確認も同時に行う。
展開 35分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">紫波町や盛岡市などの伝統文化や行事をオリンピック観光客に紹介すスピーチを完成させよう</p> <p>第1ステップ 3 発表練習1（個人）。 自分で発表練習を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【主体的】自己の発表において、最も大切な観点を自覚しながら、発表練習を行う。</p> </div> <p>第2ステップ 4 発表練習2（グループ）。 4人グループになりそれぞれの発表を見せ合いコメントしあう。また、予想される質問のアドバイスをしあう。</p> <p>5 発表練習3（個人）。 グループでのコメントを基に個人練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【対話】ペアでの発表活動において、相手に伝える姿勢（ゼスチャーやスピーチのスピード等）に十分に配慮しながら発表しようとする。また、聞き手も態度に注意しながら、わからなかった英語内容質問にその場で考えて、即興で応じたり、わかりづらかった英語の別な表現を一緒に考えたりして提示する。予想される質問を一緒に考える。</p> </div> <p>ラストステップ 6 発表練習4（ペア）。 「よりよい発表」となっているかを確認する。</p>	3 聞き手に分かってもらえるようにスピーチを行っているかという観点で練習する。 <p style="text-align: center;">◆自己評価カード（英作文シート）</p> 4 互いのスピーチ発表において良い点、改善点をアドバイスする。 6 【外国語表現の能力】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">紫波町の伝統行事や名所、祭りなどについて原稿をあまり見ずに相手に伝えることができる。</div> <p>話し手 A：発表内容を積極的な態度で、色々な手法を使いながら、聞き手に伝えることができる。 C：相手に何らかの手段を講じても自分の発表内容を伝えることができない。</p> <p>聞き手 A：話し手の発表の要点を捉え、分からないことや納得いかないことに対して本質的な質問やつぶやきをすることができる。 C：話し手の発表の内容で分からないことがあるが質問することができない。</p> 6 お互いの発表が改善されているかを具体的な観点で評価しあう。
終末 5分	7 学習活動を振り返る（個人）。 8 次時の予告	7 【リフレクション】本時の学習で気づいたことや学んだこと、次回プロジェクトで活かしたいことなどを振り返らせる。 <p style="text-align: center;">◆自己評価カード</p>

9 指導と評価の計画

3年 英語		単元名 My Project 8 日本文化を紹介しよう	総時間 6時間扱い
学習指導要領の指導事項		単元の目標	
(4) 話すこと [発表] (イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする		表 自分が住む地域の伝統行事や祭りについて自分の言いたいことを、既習の表現を活用して伝えることができる。 コ 聞き手を意識して、内容が伝わるように工夫して話すことができる。	
時	主な学習活動	おおむね満足 (B)	
1	単元の目標・流れについて確認する。 モデルとなるスピーチ原稿を読み、文章の構成を理解する。	表 モデル原稿から、名称表起源表風習表現在との関連の流れで構成されていることに気づき、例文を再構成することができる。	
2	様々なモデル文を読んだり、書いたりしながら、よく使う表現を確認し、自分の構想に役立てる。	表 七夕や節分の説明文を読み、よく使う表現や役立つ表現を抜き出すことができる。	
3	日本の伝統行事や文化に関する説明文の構想をねり、マッピングする。	表 準備してきたメモをもとに、説明文の構想をねり、マッピングを完成させ、英語で書くことができる。	
4	マッピングをもとに、日本の文化や行事について説明する文を書く。	表 マッピングをもとに50語程度のスピーチ原稿を、完成することができる。	
5 (本時)	聞き手を意識して、スピーチのための表現を工夫する。	表 自分が住む地域の伝統行事や祭りについて、文章の構成(情報の流れやつながり)に留意して、伝えることができる。	
6	聞き手を意識して、わかりやすい発音と十分な音量で説明する。 ※パフォーマンステスト	コ 小道具やジェスチャーなどを使いながら、積極的に相手に伝えようとしている。 表 わかりやすい発音やリズム、十分な音量で、スピーチすることができる。	